

株式会社高島屋 2024年2月期 第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2023年12月25日（月）に開催した決算説明会における質疑応答の回答要旨です。

<連結>

Q:今回の通期計画が上方修正されたが、かなり保守的と見ている。足元の状況からすると12月も順調であり、3Qの勢いが4Qも継続するのではないかと捉えているが、4Qに何らかの不安要素があるのか？それとも3Qの上振れ分だけに上乗せしたという理解でいいのか？

A:前年度の1月、2月は売上が大きく伸長した時期のため、実績の水準が比較的高いことに加え、今後円高の進行が業績にネガティブに影響するリスクを見ている。また、海外百貨店の足元の売上がやや足踏み状態にあることなどから、4Qでの上振れは見えていない。

Q:各利益段階の計画の修正幅について、営業利益でプラス10億円に対して、経常利益でプラス20億円、純利益でプラス5億円であるが、営業利益以下の増減要素として何があるのか教えて欲しい。

A:経常利益の修正幅が大きいのは、そもそも10月公表段階で保守的な予想をしていたことに加え、進捗期において堅調なJR東海高島屋やシンガポールのNADなどの持分法投資利益を見込んでいるためである。さらに、シンガポール子会社では、現地の定期預金の金利が4%前後とかなり高い水準となっているため、受取利息が大きく増加する予定である。純利益については、岐阜高島屋の清算に伴う労務費用を中心とした費用の見積りがまだ不透明であることや、今後減損が発生するリスクも踏まえ、保守的に見ているが、300億円を達成できる確度は高いと考えている。

Q:前年大口受注による営業利益の嵩上げ効果が3Qで17億円程度、下期で19億円程度あったと思うが、認識に相違はないか？

A:認識の通りである。前年の3Qでは、大きく2つあり、外商で売上約14億円、営業利益で約2.5億円、法人事業部で売上44億円、営業利益で約14億円であったが、本年はこれに該当するような大口受注は発生していない。一方、前年の4Qは、売上で20億円強、営業利益で約2億円程度であった。

<国内百貨店>

Q:今回の計画修正は、国内百貨店のインバウンド売上で50億円増ということであるが、年度のインバウンド売上計画を580億円から630億円に引き上げたという見方で良いか。

A:その認識の通り、年間のインバウンド売上計画を630億円としている。年末年始で潮目が変わる可能性があることや、為替変動によるリスクもあるため堅めの計画としているが、今のトレンド通りなら上振れの可能性もあると見ている。

Q:商品別売上高に関して、アパレルについてはお取引先との協業による取り組みの効果があったという説明があったが、具体的な内容について教えて欲しい。

A:前年は中国のロックダウンによる製品生産量の低下や、世界的な物流の停滞で原材料の輸入に支障が出たことなどにより、冬の重衣料実需期の需要に対し、十分な供給量を確保できなかった。本年は、主要お取引先を中心に、前年の反省を生かして本年の需要を予測し、型番別にオーダーを行った。9月から10月は暖冬の影響により重衣料の動きは鈍かったものの、お取引先と共通認識を持った上で、精度の高い発注を行い、在庫を確保できたことで、11月後半に気温が一気に低下した際に、売上が大きく増大させることができた。

Q: 今下期から構造改革をさらに推進して、後方業務の効率化に取り組んでいるという説明があったが、現在は具体的に何に取り組んでいるのか、今後どのように効果が出てくるのかについて教えて欲しい。

A: 百貨店のレジや後方業務のオペレーションが店舗やフロアによって異なっていたため、それらを標準化する取り組みを進めている。業務オペレーションを全店で統一することで、業務運営を効率化し、生産性向上を図っている。また、将来的には標準化した業務をIT化し、より少ない要員でも業務を運営できる体制を整備していく考えである。そのため、今期すぐに大きな効果が出てくるものではないが、次年度以降は販売管理費の削減、さらに将来には人件費の削減につなげていく計画である。

Q: 国内百貨店の4Qの販売管理費について、現時点で想定している増加要素はあるか？

A: 電力量の単価が上昇するリスクや、店頭やECの売上が増大した場合に売上比例費や運賃が増加する可能性はあるが、基本的には大きな販売管理費の増加は想定していない。

<グループ会社>

Q: 高島屋スペースクリエイツが3Q決算で赤字に転じた理由、4Q決算に向けての見通し、および連結決算へのインパクトについて教えて欲しい。

A: 高島屋スペースクリエイツの営業利益は、2Q時点では僅かな黒字であったが、3Q決算では約5億円の赤字となっている。この差額はTSCが適用する工事進行基準によるものである。一部の大型案件で工事が遅延しており、労務費や材料費の原価の高騰分を3Q時点で先行計上した。4Qでは、原価の高騰分を適切に反映・転嫁した売価が計上され、その先行分がある程度カバーされる見込みである。同社は元々4Qで多くの引き渡しがあり、それに伴い売上も計上される予定である。年度では7億円の営業利益計画であるが、それに近い水準を想定しており、連結決算への影響は軽微なものと考えている。

<株主還元>

Q: 業績は上方修正した一方で、配当は据え置きとなっていることに関する考え方を聞きたい。増配するほどの修正ではないということでしょうか？

A: 今回の上方修正は、基本的には配当予想を引き上げるほどのものではないという認識であり、2Q決算時点の配当計画の通りとさせていただく予定である。

以上